

日本地球掘削科学コンソーシアム
第2回 IODP 部会・執行部会 議事録

日時：平成 17 年 5 月 16 日（月）

午後 14：00～16：30

場所：海洋研究開発機構 東京事務所 10F 役員会議室

出席者

部会メンバー：鈴木・巽・荒井・佐柳・木戸・阿波根・白井・佐藤・山田・

CDEX：川村・杉山・相沢

未来館：竹内・新井

AESTO 事務局：山川・喜多河・増田・金井

主要議題

【CDEX3 名執行部リエゾンとしての参加について】

- ・CDEX の倉本氏・川村氏・伊藤氏からリエゾンとして J-DESC・IODP 執行部会への参加と ML への登録要請があり承認された。

【SAS パネル関連】

SPPOC と SPC の副議長選出について提言された。「配布資料 2 - 」

- ・SPC 副議長 5 月 30 日に公募締め切り、6 月中旬に選出・承認できるようにする。
- ・任期については 2 年副議長、2 年議長、その後 1 年間委員として任期計 5 年（原則的には、当該委員会の委員として経験した人が好ましい）。
- ・SPC の Mike 氏は議長任期（H17 年 9 月末）終了後、1 年間 SPC 委員として残る。
- ・SPPOC/SPC 副議長と各委員の選出・承認・報告手順書を作成（事務局がドラフト作成）し文書化する。

SSEP 共同議長の選出について提言された「配布資料 2 - 」

- ・SSEP からは公募で選出する。
- ・他のパネルも公募方法に基づいて公募してもいいのではないかと判断は専門部会ごとに一任。
- ・荒井共同議長の後任として、多田隆治氏（ESSEP 委員）を候補者として推薦する。

EDP（旧 TAP）国際パネル委員（含共同議長）のローテーション選出について提言された

- ・次回（H17 年 9 月開催予定）まで現体制で対応することが承認される。
- ・アメリカから議長が出る予定（資料回覧）
- ・次回以降、2 名程ローテーションしたいという（増田共同議長任期終了後委員として残るが、蒲田委員は次回で退任する）。
- ・SPPOC・SPC だけ Chair and Vice 制 それ以外は co-chair 制（但し、SSEP は 3 人の co-chair 制）にす

る。

- ・公募が望ましいが、専門部会の判断（決定）を尊重する。
- ・次回開催地については、当初 SSP が 9 月に札幌開催の予定であったが、SSDB（Site Survey Data Bank）関連を考慮してサンディエゴで開催する方向に変更されたため、EDP の第 1 回会議が札幌で開催される可能性がある。

IS-PPG（旧 ILP）の委員選出について提言された

- ・日本から 2 名以上委員を出してほしいといわれている。
- ・執行部から山田執行部員（京都大学） 産業界から辻氏（JOGMEC）を推薦することが承認された。
- ・国際パネル委員のローテーションリストについては、事務局と IODP 部会・執行部会長補佐による協力のものと作成する。

【国内専門部会関連】

IODP 国内科学計画委員会・専門部会の各委員リスト（2005 年 5 月現在）が AESTO 事務局より配布され、正誤の確認が要請された 「配布資料 2 - 」

事前調査検討専門部会による「既存科学掘削提案アンケート調査」の現状報告がされた

- ・3 月末で既存プロポーザルに関するアンケート調査の現状報告がされた。
- ・16 件のうち 7 件の回答（現時点）があり、現在、事前調査検討専門部会にて解析されている。

International Workshop の開催について提言された

- * Core-Logging-seismic integration workshop の開催について CDEX より提言され、J-DESC との共催が承認された 「配布資料 CDEX - 07」
- ・対象範囲は広域に及んだほうが良いということで、IODP データーハンドリングの手法等も含むように検討する。
- ・Core, logging, そして地震探査が中心。
- ・関係機関（JAMSTEC, J-DESC）の HP を活用して、情報提供をする。開催場所は CDEX の普及広報グループと事務局で協議する。
- ・孔内計測 WG からのコメントと協力を乞う。
- ・CDEX 科学計画室がすべて費用を受け持つ
- ・異執行部員からプロシーディングや技術報告書など形にのこるようなワークショップにしてほしい旨提言があった。

【国際対応】

MRI（IODP Management Retreat Information）について報告があった 「配布資料 」

- * IODP-MI, Talwani 氏の提言のもと、主催機関の関係者が参加、会合の進行は Talwani 氏と平センター長。

- ・ National Office から鈴木部会長が参加
- ・ IODP の将来の展望（あるべき姿）とその具体的な実像について議論された。
- ・ 本会合の位置づけが不明、提言された具体的なアクション、考え方、進め方をどう反映させるか、そのメカニズムも不明などのコメントがあった。

アジア諸国からの乗船研究者の応募

- ・ J-DESC としては、Invitation Letter を送付済みであるが、更なる応募要請のための Remind Letter を送るのは韓国・台湾だけでなく、中国も必要ではないのかとのコメントがあった。
- ・ 台湾・韓国・中国にはナショナルオフィスがあるので J-DESC として Remind Letter を送る（オーストラリアには公式なナショナルオフィスがないので今回は見送る）。
- ・ 「アジア諸国からの乗船研究者の応募・選考・推薦手順について」の明確化が提言された。

【普及・広報】

会員提案型活動経費の審査委員会メンバーの交代について提言された 「配布資料 2 - 」

- ・ 事務局（案）が承認された。
- ・ 予算規模は 250 万円計上する。
- ・ 特にプロポーザル応募につながる活動を支援する。
- ・ 公募は原則的に年 2 回の 5 月 / 9 月（HP と ML で）に設定する。

MEXT のプレスリリースについて報告があった

- ・ PL 用の文書は co-chief 中心に作成、乗船の 2 週間前に公表、地方紙にも出すので一般的でわかりやすいものにする。
- ・ もっと早めに出して、乗船研究者の募集に活用したい。
- ・ 乗船研究者が自ら地方紙に売り込みに行く積極性を期待したい。

地球惑星科学関連学会 2005 合同大会 J-DESC ブース / 地球惑星科学関連学会 2005 合同大会 AOGS ブース
展示について CDEX より説明があった 「配布資料 CDEX 0 0 ~ 0 4 」

- ・ 新しい Web の展開。
- ・ AOGS ・ 合同学会では J-DESC、アジアコンソーシアムのポスターを出す。
- ・ AOGS ・ 幕張コンセプトは同じ。
- ・ 地震発生帯掘削タウンミーティングについて（5 月 25 日）紹介された。
- ・ ISC2006 について報告があり、J-DESC でサポートできるか？九州の国際会議場で開催予定とのこと。
- ・ KOS2005（日韓合同ワークショップ）について報告された。（今後 KOF との協力のもと、合同シンポジウムの開催、高知コアセンターにおけるトレーニングコース開催などの企画・検討）

その他今年度キャンペーンについて報告があった

- ・新潟キャンペーン（4/28～4/29）の報告、若い乗船研究者の人たちにもっと話してもらえるようにしたい。
- ・今後は秋田、東海、島根の予定。
- ・11月にジオカーニバル（大阪）子供向けのキャンペーンも予定。

【乗船研究関連】

乗船研究者の応募・ランキング状況の報告があった 「配布資料2 - 」

乗船研究者の研究支援についてCDEXより報告があった 「配布資料CDEX - 08」

- * IODP 乗船旅費、予算執行の平等性について説明があった。
- ・現状では、予算は#308までの確保である。
- ・5月末に見直しの予定。
- ・乗船研究者による競争的資金の獲得に更なる鋭意努力が必要である。
- ・学生の乗船研究者からも不満がでている（噂など）
- * 研究者への周知方法について素案の説明があった 「配布資料 」

FY05以降のCo-chief scientist nominationについて提言された 「配布資料2 - 」

- ・CVの扱いについて個人情報に気を付ける。

日本科学コミュニケータによるIODP乗船教育プログラムの実施について未来館（竹内氏）より説明があった。 「配布資料CDEX - 05 . 06」

【その他】

- ・AESTOのScience Coordinatorの雇用現状について報告あった。
- ・次回は執行部会メール会議開催が確認された（次回第3回IODP部会・執行部会は6月27・28・29日のいずれかに開催予定）。 「配布資料 」
- ・執行部会に関わる交通費支給について確認があった。
（鈴木部会長の承認のもと、AESTOに交通費支給の指示をすることになった）
- ・IODP国内科学計画委員会（小泉委員会）について第1回は6月に開催予定の報告があった。